

令和2年度自己評価結果公表シート

庄本幼稚園

I、本園の教育目標

緑いっぱい環境の中で おもいやりのある子ども 自主性のある子ども 明るく、正しく、素直な心の子どもを目指して ・基本的な生活習慣を身につける。 ・自然に対する関心を抱かせる。 ・丁寧な保育をし、自立心を育てる。 ・思いやりのある子どもらしい子どもに育てる。 ・行事や活動から生まれる達成感や感動を体験する。

II、本年度、重点的に取り組む目標と計画(Plan<<目標設定>>)

1、行事や活動における非認知能力の向上 2、園児のみとりと理解 3、健康と安全への配慮(特に新型コロナ対策) 4、教師としての資質の向上

III、評価項目の達成及び取組状況(Do<<取組>>)

評価項目	取組状況
1、行事や活動における非認知能力の向上(運動会、作品展、縄跳び等)	ア、子どもたちのやってみようとする気持ちを引き出せるよう、興味を引く声かけをした。否定的、強制的にならないよう心がけた。
ア、意欲、チャレンジ力	これからの保育の説明、見通しの説明をした。
イ、協調性、思いやり、協力	イ、日常の活動の中で、相手の気持ちを考えたり思いを伝えたり、協力することの大切さに気付かせるよう、協力を促すよう、こころがけた。運動会では協力すること、皆でひとつのことに頑張ることに気付いた。作品展では協力して一つの作品を作ること、友だちを助け、時間ロスが少なくなるよう気付かせた。
ウ、忍耐力、集中力	ウ、あきらめず、頑張ること、繰り返し取り組むことの大切さ、を伝えた。鼓隊やおゆうぎを通して忍耐力、集中力を高めている。工作は静黙に、おゆうぎ縄跳びは集中して繰り返し行った。
エ、思考力、判断力	エ、頼らずに自分で考えて行動することの大切さ、何をすべきかどのように行動すれば、自分で考えるように、小さな取り組みも自信につなげていく。絵本等教材を使って園児と話をすることで、考えを引き出した。
オ、自立心、やりぬく力、感謝する心	オ、周りの人に役立つこと、感謝、自信を持てるように見守る。目標を自ら立て、達成出来た時、共に喜び、誉める。何度も繰り返し取り組み、自信へと導く。お誕生会や行事で感謝。うまく言葉で表現できない園児とは家庭との連携を深める。
2.園児のみとりと理解	アーa、目を見て話をし、問いかけだけでなく、子どもたちの言葉で話が出るよう声かけをする。言葉だけでなく表情の変化やその場の状況を見て子どもの気持ちになって考える。思いやサインを見逃さないよう目配りをす
アーa、園児1人一人を良く観察するよう心がけている。	
アーb一人の園児を見ながら周囲にも目を配る。	アーb、一人の子どもを見ながら全ての子どもに目が行き届くよう、余裕のある保育、他の先生との連携、
アーc 園児の姿を多面的にとらえる。	アーc、園児の個性を把握している。設定保育外の時間でも園児の発想や取り組み、友だちとの関わりを観察している。
イ、友だちとの関わり方	イ、園児同士の関わり方を捉えながら、トラブルがあると、なるべく子供同士の解決を目指す。両者の話を聞き適切な対応をする。きちんと向き合っている。
ウ、自分の一方的な感じや考えで決めつけない。	ウ、一人ひとりの性格を理解し、その子に応じた声かけを、個々の良さを受け入れるよう小さなことでも良いところを見つけるよう、先入観が入らな
エ、園児の理解	エーa、日常の中で気になることや出来事をメモして、まとめて保護者に伝えている。保護者は連絡を望んでいる。 エーb、家庭での様子を聞き、性格を踏まえて理解。
3.健康と安全への配慮	
ア、健康への配慮 特にコロナ対策について	ア、a.(登園時、朝の挨拶時)視診、表情、日常との比較、体調、普段の園児の顔色、体調などの観察をしている。 手指消毒、マスクの着用、保護者との連絡。 b.(保育時)マスクの着用、手指消毒の徹底、教室の換気、扇風機の使用、 c.(行事対応)行事の中止、縮小、保護者参加の制限等、保護者会と連絡をとりながら対応。
イ、定期的な健康診断	イ、内科、歯科、眼科、耳鼻科の健康診断をしている。おたよりノートで連

ウ、伝染性病気対策	ウ、手洗い、うがい、除菌等の徹底。発熱、せき、下痢等 体調不良の確認と連絡、現在流行している病気の情報収集と対応に早め に行動する。
エ、遊具等の点検マニュアルの活用	エ、年度初めに遊具の使い方を指導。毎朝の目視点検、週1回、2カ月1 回点検、遊びの指導、1か所に留まらないよう広くしっかりと目配りする。 間違った使い方には注意。 破損箇所、破損を予想される箇所の対策、
オ、避難訓練	オ、不審者対策(訓練、通報、連絡)、火災、地震避難、 自分自身の行動、安全な誘導計画を記憶しておく、
4、教師として資質の向上 ア、園児や保護者との対応は公平性を欠かさないよう	ア、感情的にならず常に冷静に話をするよう心がけている。 先入観を持たず常に新しい気持ちで、
イ、身だしなみ、挨拶、感謝の気持ち	イ、一社会人としての心構え、常識を持つよう、元気で明るい挨拶、常に 感謝の気持ちを持ちながら、
ウ、清掃や整理整頓を實行	ウ、朝タチェック、保育準備に追われて清掃がおろそかにならないよう 気持ちよく、また衛生面でも隅の細かいところまで
エ、プライバシーに関する情報の保護	エ、プライバシーに関する情報は持ち帰らない、保管や取り扱いに気を付 ける。全て園で保管。
オ、情報の共有、職員間の協力と連携	オ、情報の交換は口頭やホワイトボード、メモ等で、困った時はクラスを超 えて相談、伝達ミスが無いように注意。
カ、幼稚園教諭としての専門知識や技能の向上	カ、自分自身勉強、研修に積極的に参加、図書館やインターネットで調べる

IV、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果(Check<<達成状況の評価>>)

新型コロナウイルス拡大感染渦、緊急事態宣言により6月まで休園が要請され、園児はもちろん、教諭自身の感染に気を使いながら
の1年であった。

取り組むべき目標や計画について、縮小しながらでも全職員が共通に理解し積極的に取り組んだ。1.行事や活動における非認知
能力の向上を目指して、ア、意欲やチャレンジ力については、強制ではなく気持ちを引き出せるようタイミングよく声かけをして、少
しでも出来たことを誉めることによって少しずつ向上がみられた。イ、協調性や思いやり、努力については、運動会の一つの競技
で、みんなで力を合わせ一緒に頑張ること、作品展の共同作品ではみんなで力を合わせ、少しずつ形になっていく喜びや、終
わった後の沢山の笑顔が見られたことは協調性、努力の大切さを身体で感じる事が出来たのであろう。ウ、忍耐力や集中力の
向上については楽器演奏や縄跳びで繰り返し練習すること、集中することの大切さを身に付けたと思う。エ、思考力、判断力につ
いては、頼らずに自分で考え自分で行動するよう、出来るだけ見守るようにしてきたが、限定的になった。オ、自立心、感謝、やり
ぬく力については日常の保育や行事の中で、自信を持ち、やりぬく力を身につけるために見守りを重視し、感謝の気持ちが言葉
として、行動として素直に出るように指導した。2.の園児のみと理解については、保護者や同僚の先生からの情報を得て先入
観を持たないよう心がけた。常に安心感や楽しい気持ちを忘れずに子供の目線で話しかけるよう、トラブルがあれば双方の意見
を平等に聞くよう心がけた。子供の自主性の尊重が時間の余裕がなく、不足した面があった。3.健康と安全について特にコロナ
対策については、登園時に出来るだけ言葉かけをし、園門で手指消毒をしながら、子供の体調や顔色の観察に心がけ、保護者と
の連絡を密にした。保育中の部屋の換気、手洗い、うがい、消毒等にも心がけた。行事については、保護者会との調整を行い、
中止にしたり、縮小により実施した。遊具の安全については年度初めに安全な使い方の指導を行った。また、毎朝の点検も行った。
不審者対策、避難訓練は例年通り確実に行った。4.教師としての資質の向上については一社会人として絶えず自覚し、向

V、今後、取り組むべき課題(Action<<改善>>)

重点的に取り組むべき目標や項目について、全職員が十分に理解し、実行できるよう、環境づくり、意識の高揚に努めなければ
ならない。特に目標の一つである行事や活動における非認知能力の向上については小規模園こそ評価しやすいと思われる。そ
れには常日頃から園児の性格、行動等の把握、理解や他の保育者や保護者からの情報確保にも努めなければならない。園児
の健康と安全に繋がる項目については、普段の観察や伝染病対策、遊具、施設の点検、訓練等も抜け落ちることなく想定される
危険性にいち早く気づき、更に重点項目の見直しも行う必要がある。特にコロナ対策については変種コロナにより更なる拡大感

VI、学校関係者の評価

前例のないコロナ禍の1年で、保護者の意見も聞きながら、行事や日々の保育をできる限り実施してもらって感謝。年少児のコ
ナ対策は難しいと思うが、努力されていた。今後とも保育者自身の感染予防にも気をつけてほしい。評価は概ね妥当であると認
められる。家庭との連絡も適切に行われ、先生方のきめ細かな熱心な指導も良好であるとみとめられる。子どもの個性を良く把
握して、適切な言葉かけや励ましにより非認知能力の向上に努めていた。子どもを良く理解し対応も細かく安心出来た。園行事
や家庭での子どもの様子を振り返ると成長が分かる。子どもの衛生面、安全面においても気を緩むことなく緊張感をもって対応

VII、財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。